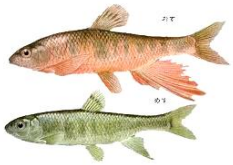
心のまちづくり

“芥川に「おいかわ」が帰る”

この連日の猛暑続きで、部屋の中で過ごすことは忍耐がいりますね。

私は最近連日、暑さしのぎを兼ねて、近くの（自転車で2分）芥川に入って、ゴミの回収や外来種の雑草の駆除をしています。　直径２ｍもある大型のタイヤを川底から引き上げました。畳２枚分ぐらいの大きなタイヤです。水の中では引っ張ることができるのですが、岸に引き上げることは重くてできません。川がきれいになったので今まで川底に埋もれていた、大型のゴミが顔を出すのです。

４ｍの長さの鉄のポール（直径８センチ）も掘り出しました。　一方、生まれたての小魚が水草の中を畳１枚の広さに２百ぐらいが集団で泳いでいます。「おいかわ」という魚の稚魚です。成長した親の魚は15センチぐらいの細長い魚です。この「おいかわ」が今年はものすごくたくさん泳いでいます。川の浅瀬を集団で素早く泳ぎます。



「鵜」が潜ってたくさん食べますが体が飲み込んだ魚の重みで高く飛べなくなり低空飛行で帰っていきます。少々食べられても魚の数がたくさんなので影響がありません。３年前ぐらいは、鵜が食べ尽くしたのではないかと思うぐらい、魚の姿が見られなかったのですが今年はたくさん増えました。

４年前から「外来種の水ヒマワリ」という水草を徹底的に駆除してきました。行政も予算を組んでとりくんでくれたので、その結果が現れたように、思います。日本本来の水草が岸に茂り、産卵場所がたくさんできた為だと思います。ゴミは主に川底にへばりついた塩化ビニールの袋です。黒く変色していますが掘り出せば、たいていコンビニやスーパーで利用している白い袋です。３時間の作業で45Ｌの家庭用ゴミ袋が満杯になるぐらいのゴミが川底から集まります。　悲しい日本の現実です。

今日は吹田の相川という川の合流点で「EM」団子を一万五千個を投げるグループの手伝いをしてきました。４百ｍの長さ、幅40ｍ位がヘドロの海になっています。バイクや自転車、タイヤ、流木等がたくさんありますがヘドロで足を取られるので中に入れません。近隣の百五十人ぐらいの方（小中高学生や婦人、老人等さまざまな年齢層）とともに　有効微生物を閉じこめたテニスボールぐらいの大きさの土団子を投入しました。ヘドロを微生物が食べてくるので、今年で３回目になり、３年経過して川岸の悪臭はほとんどなくなりましたが干潮になればヘドロの海の状態が姿を現します。高槻市や茨木市、摂津市の市民が投げたゴミの集積場の悲しい現場です。　ヘドロもやる気があれば、やがてなくなりたくさんの魚や鳥の住みかとなること、を実感しています。

Ｙ・Ｊ

活動報告

“生活支援活動”

他の団体との協働活動

久しく活動の場がなかったが、２０１１年７月下旬に宮田町Ｉ宅の庭木の剪定と草引きを行うことができた。今回の活動はＶＧ槻輪が独自で展開したもので、従来のサポートセンターからの依頼を受けて行っていた活動とは異なっている。剪定は木の本数がやや多かったこと（13本）と高いところの作業が必要であった為、専門の方「ＮＰＯ里山ネット」に依頼した。庭の草引きと背の低い樹木の枝落としは「ＶＧ槻輪」にて行う協働の活動であった。これからは、ＶＧ槻輪独自での活動の展開を積極的に進めていきたい。会員各位の依頼情報の提供をお願いいたします。

写真は剪定作業完了後の外観のひとコマです。

Ｍ・Ｓ

会員だより

“昆虫は縁結びの神様！”

私は家庭菜園や庭いじりで蜂や蟻が寄ってくると嫌だな・・蝶々ならいいけど・・と勝手な事を思いますが、植物にとって子孫を残す為、授精を助けてくれる昆虫は無くてはならないものです。むしろ蝶々の方が卵をうみつけ、青物や柚子など柑橘類の葉をあっと云う間に食べつくす青虫に成長する困りものなのですが。

冬瓜に来るアブの様な蜂、おみなえしには蜜蜂、もんしろ蝶や黄蝶、揚羽蝶、しじみ蝶などそれぞれ好みの植物があるようです。

昆虫のお陰で我が菜園は収穫豊かでした。ただおみなえしは、派手な黄色の小花を落とすばかりで、種が出来ず、女郎花という字が当てられたのでしょうか。

植物も動物も夫々の知恵で次の世代をしっかり残しています。

Ｓ・Ｕ

カメラは友達

“逆さマッターホルン絶景”

夏のスイスアルプスは、高山植物の花盛り。ローテンボーデンからリッフェルベルグへのハイキングコースの前方にはマッターホルン、両側の道端には可憐な色とりどりの花が咲いている。快晴の空、鏡のようなリッフェル湖に映るマッターホルンは息を呑むほど美しかった。

Ｓ・Ｎ